

日仏で絵画共同制作

精神障害者 支援施設 利用者、画家招き

精神障害者の基幹型
地域生活支援センター

・ゆう(岡山市南区内
尾)で22日、センター
利用者ら約10人と、フ
ランス人画家ジャン・
フランソワ・ブルジャ
さん(49)による絵の共
同制作が行われた。

同センターを運営す
るNPO岡山けんかれ
ん(県精神障害者家族
会連合会)の主催で、
24、26日に岡山第一セ
ンtralビル1号館9
階(北区本町)で開か
れる「現代国際巨匠絵
画展」に展示するため
企画。

ブルジャさんは、利
用者らが四季をテーマ
に事前に描いた絵(縦
0・7メートル、横1.1メ
ートル)の中心に、アクリル絵の
具で湖畔の建物などの
風景を手際よく加え
た。「臨場感があって

楽しかった」と話して
いた。

同絵画展は、著名な
芸術家のリトグラフや
シルクスクリーンなど
とともに、精神障害者
らの作品約200点を

展示販売する。収益金
の一部は精神障害者支
援に充てられる。今回
の共同制作の作品は展
示のみ。入場無料。
(小野寺万由子)



絵を共同制作するブルジャさん(左手前)

障害者と一緒に
作品作り楽しい
仏画家ブルジャさん
精神障害者の日常生
活支援などを行う基幹
型地域生活支援センタ
ー「ゆう」(南区内尾)



精神障害者とともに作品を仕上げる
ブルジャさん(左)＝南区で

で22日、フランス在住
の画家、ジャン・フラ
ンソワ・ブルジャさん
を招いた交流会があっ
た。施設利用者らが四
季をテーマに花火など
を描いた台板に、ブル
ジャさんがフランスの
夏の風景を描き込ん
だ。ブルジャさんは「一
緒に制作できて楽しか
った」と話した。
センターを運営する
NPO法人「岡山県精
神障害者家族連合会」
が主催する「現代国際

巨匠絵画展」の一環。
絵画展は24、26日、北
区本町の岡山第一セ
ンtralビルで開かれ、
ブルジャさんの作品や
県内の精神障害者が描
いた作品などが展示・
即売される。
展示会は入場無料。
ブルジャさんのサイ
ンもある。【石井尚】

精神障害者の表現力 応援



絵画や陶芸100点展示

県内の病院や作業所など10施設で精神障害者が描いた絵画や陶芸など約100点を集めた展示会「心のアートプロジェクト」が24日、岡山市北区本町の第一セントラルビル9階大ホールで始まった。社会から孤立しがちな精神障害者に発表の場を設け、自信につなげようと、同市南区のNPO法人・県精神障害者家族会連合会が初めて企画した。同NPOの担当者は「温かい絵がいっぱい。ぜひ見に来て」と呼びかけている。26日まで。

(辻田秀樹)

絵や書道作品などを出品した岡山市内の40歳代女性は、短大に通っていた20歳の時、突然、幻聴と幻覚に悩まされ始めた。勉強を続けることが難しくなり、睡眠剤と精神安定剤が手放せなくなった。短大は何とか卒業したものの、就職した仕事は長続きせず、その後、十数年間、通院以外は自宅に引きこもる生活が続いた。

3年前、入院をきっかけに市内の作業所に通い始めた。施設が運営する喫茶店

精神障害者の力作を集めた心のアートプロジェクト(岡山市北区で)

北区「回復過程表れている」「理解深めて」

で接客をする傍ら、初めて絵や書道を習った。引きこもり生活の間に悪化した対人恐怖症が少しずつ改善し、今回、作品を出品。女性には「絵を描くことで無心になれた。自分の回復過程が絵に表れている。出品することでもっと前を向けた」と話した。女性は今、20年ぶりに就職を目指している。

会場にはこのほか、岡山、倉敷、玉野、真庭市の作業所や病院で練習を重ねた統合失調症やうつ病などを持つ人の油彩画や陶器などが並び、訪れた人たちが作品をじっくり眺めていた。

同NPOの担当者は「人生の途中で突然、襲ってきた心の病に翻弄されながらも、頑張って仕上げた作品ばかり。作品を通して、精神障害についても理解を深めてほしい」と話している。

会場では、作品を数百円から数万円で販売している。入場無料。開場は午前10時〜午後6時。